

令和 2 年 6 月 7 日現在

機関番号：15501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K02257

研究課題名(和文) 『葉隠』の武士道をめぐる倫理思想史学的研究 - 未刊写本の翻刻と訳注作成を通じて

研究課題名(英文) Research of Bushido in "Hagakure" from the Perspective of Japanese Ethical Thought History

研究代表者

栗原 剛 (KURIHARA, Go)

山口大学・人文学部・准教授

研究者番号：50422358

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,900,000円

研究成果の概要(和文)：近世日本における代表的武士道書である『葉隠』に対して、未翻刻の写本に新たな注釈と現代語訳を付し、本文とあわせてこれを一連の著書にまとめ、刊行した。また、そこに説かれた武士道についての論考を、上記の著書の中でも、また雑誌論文としても発表し、『葉隠』が説く武士道のもつ倫理思想的な意義について、再検討を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

新たな写本にもとづく『葉隠』全文の翻刻、およびこれに対する注釈と現代語訳の作成、という本研究の成果は、これまで武士道における古典とされながら、その基礎的研究環境が必ずしも十分に整えられないままであったという、『葉隠』に対する研究状況の停滞を打破したものであり、学術的に大きな意義を有している。また、本研究の成果が文庫として刊行されたことは、学術的なニーズにとどまらず、武士道という思想文化に対する社会的な関心の高さを、証明するものである。今後、人びとが『葉隠』および武士道についての知識や教養を求めに当たっても、本研究の成果が担う役割は大きいと言える。

研究成果の概要(英文)：We made the new annotation and the new translation in modern Japanese for "Hagakure" which is one of the most representative texture of Bushido in Edo period. The results have been published in a series of books. In addition, we published several papers within above books and in another academic magazine, in which we reconsidered the significance of Busido in "Hagakure" from the perspective of Japanese ethical thought history.

研究分野：日本倫理思想史

キーワード：武士道

1. 研究開始当初の背景

『葉隠』は、武士道研究において、また広く日本思想史研究においても、古典として位置づけられてきた重要文献である。しかしながら、その底本を明示して『葉隠』全文を翻刻した刊本は、1974年の『三河物語 葉隠』(日本思想大系・岩波書店)を最後に、過去40年以上にわたって、出版されることがなかった。さらに、本文全てに対応させるかたちで注釈と現代語訳を提供したもののについては、従来の研究史において一点も存在していなかった。

研究者代表者は早くから、『葉隠』が説く武士道の内実、および、それが近世日本倫理思想史において有する意義を、究明しようと志してきたものであるが、上記のような研究状況の停滞に鑑みて、まずは今回、『葉隠』全文に対する注釈と現代語訳を作成することを、自らの研究の足がかりとして、構想するに至った。

2. 研究の目的

本研究は、近世日本の代表的な武士道書『葉隠』について、倫理思想的観点から、その内実や意義を究明することを、目的としたものである。主従関係や死生をめぐる鍋島武士の倫理観を深く探り直し、武士道および日本倫理思想の歴史の変遷のなかに『葉隠』を正しく位置づけることを目指すとともに、ひいては、『葉隠』に説かれた武士道が現代社会においてどのように活かされる可能性をもつかについても、考えていこうと目論んだものである。しかし今回、まずはその前提として、従来の研究において完備されなかった、『葉隠』全文に対応する新たな注釈と現代語訳を作成することを、当面3年間の目標として設定した。

3. 研究の方法

まず、佐賀県立図書館が所蔵する『葉隠』写本(天保本・杉原本と称されるもの)からの翻刻作業を行った。具体的な方法としては、研究協力者・岡本和真が写本の文面を解読した上で活字としてデータ化し、これを研究代表者・研究協力者全員が共有する、という形をとった。

その上で、本文に対するより精密な校訂作業、および、語注・人物注・現代語訳の作成作業を行った。具体的な方法としては、代表者と協力者が役割を分担した上で、各自の作業を持ち寄り、全体を統一する、という形をとった。ただし、『葉隠』の独自の思想がとくに色濃く表れている「聞書一」「聞書二」に関しては、あらかじめ代表者・協力者が連絡をとりあい、内容についての議論を共有した上で、各自の作業にあたった。

なお、研究協力者との間の具体的な作業分担・協力体制は、以下の通りである。

研究協力者・菅原令子は、校訂作業、および語注・人物注の作成作業を担当した。

研究協力者・木澤景は、現代語訳の作成作業を担当するとともに、当該写本が、これまでに紹介されてきたものを含めた他の諸本との比較において、どのような特徴や意義をもつものであるかを考察した。

研究協力者・菅野覚明は、語注・人物注の作成作業を担当するとともに、書籍を刊行するにあたっての監修と助言を行った。

研究代表者・栗原剛は、現代語訳の作成作業を担当するとともに、研究作業全体をとりまとめる任にあたった。

また、研究期間中二回にわたり、佐賀県立図書館および佐賀市内各所における、資料収集と現地調査を行った。これにより、作業に必要な諸写本を閲覧・複写することが出来ただけでなく、『葉隠』ゆかりの重要な史跡や寺社にかかわる知見を、直接得ることも出来た。

4. 研究成果

上記の方法によって得られた成果は、『新校訂 全訳注 葉隠(上)(中)(下)』(講談社学術文庫)として、研究期間中に随時、刊行された。

なお、本研究の成果である上記の共著書が刊行されたのと同ほ同時期に、同様の問題意識をもった研究者グループによって、『定本葉隠[全訳注](上・中・下)』(ちくま学芸文庫・2017年)が刊行された。その訳注を監修した吉田真樹(静岡県立大学)は、筑摩版と本書の刊行をあわせて、『葉隠』研究における画期的な慶事である、と評した(「web ちくま/本と書評」2017年11月29日)。このように、新たな写本にもとづく『葉隠』全文の翻刻、およびこれに対する注釈と現代語訳の作成、という本研究の成果は、当該分野全体に高まる要請に応じたものであり、学術的に大きな意義を有している。

また、視野を広げると、本書および筑摩版『葉隠』がともに文庫として刊行されたことは、学術的なニーズにとどまらず、武士道という思想文化に対する社会的な関心の高さを、証明するものである。本書が刊行されて以降まだ日は浅いが、前田信弘『葉隠 処世の道』(日本能率センターマネジメント協会・2019年)には、本書の注釈と現代語訳への謝意が明記された。今後、人

びとが『葉隠』および武士道についての知識や教養を求めるにあたって、本研究の成果が果たす役割は大きいと言えよう。

本文・訳注の作成と公刊に加えて、『葉隠』の思想内容を分析・解説する論考数本も、研究成果として発表された。上記の共著書上巻所収の「解説」は、研究協力者・菅野覚明によるもの、下巻所収の「『葉隠』諸写本における天保本の位置 新たな分類説の試み」は、研究協力者・木澤景によるものである。また研究代表者・栗原剛は、「『葉隠』「聞書第一」第二項における死「喧嘩打返」の理想形に即して」(『山口大学哲学研究』第27巻、2020年3月)を発表した。

研究代表者・栗原剛は、本研究の成果を足がかりとした新たな研究課題「『葉隠』の武士道における忠誠の再検討 「誠実」をめぐる日本倫理思想史学的研究」を、今年度より3年間の予定で申請し、採択されている。『葉隠』の思想内容に踏み込んだ研究は、その中で引き続き進めていく予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 栗原剛	4. 巻 27
2. 論文標題 『葉隠』「聞書第一」第二項における死 「喧嘩打返」の理想形に即して	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 山口大学哲学研究	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計3件

1. 著者名 菅野覚明・栗原剛・木澤景・菅原令子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 講談社	5. 総ページ数 872
3. 書名 新校訂 全訳注 葉隠（中）	

1. 著者名 菅野覚明・栗原剛・木澤景・菅原令子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 講談社	5. 総ページ数 744
3. 書名 新校訂 全訳注 葉隠（下）	

1. 著者名 菅野覚明・栗原剛・木澤景・菅原令子	4. 発行年 2017年
2. 出版社 講談社	5. 総ページ数 644
3. 書名 新校訂 全訳注 葉隠（上）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	菅野 覚明 (KANNO Kakumyo)		
研究協力者	菅原 令子 (SUGAWARA Reiko)		
研究協力者	木澤 景 (KIZAWA Kei)		
研究協力者	岡本 和真 (OKAMOTO Kazuma)		